

酒井雄二郎 オサム 政論家。壽延元年九月九日肥前國生れ、明治二十二年十一月九日歿（六〇—九〇）。號九章法々學人、八紘生。中江兆民の師等。農商務省公入り、明治二十二年パリ萬國博へ赴く。翌年第一インターナショナル第一回大會へ出席し、歸國後小島龍太郎等と社會問題研究會を創設。二十三年朝日新聞社特派員として渡佛を、パリのホテルで墜落死。

譯著書、噫美爾亞可刺士（アノラス）著「政理新論」前卷之上（白

石時康共譯、明治十七年四月酒井雄二郎時康出版、自新觀）、國民之友

・第一集（合著、明治二十年十一月上田捨吉出版、大阪・國友館）。

ヤ、ドビヅール著 今世歐洲外交史（全二冊）（譯、再版—上卷・明治二十

二年六月八日、下卷・七月）二十五日東京專門學校出版部「早稲田叢

書」）、コデミクラシー論（排曲學論）（附都筑馨ハ・民政論）（注

谷悅治解説、昭和二十四年一月十日實業之日本社「近代日本文化叢

書」）、列國社會黨大會議世（木村毅解説、昭和二十六年二月十

日朝日新聞社「朝日文庫」）等。